

2019年9月期第3四半期 連結決算説明資料 (2018年10月-2019年6月)

株式会社FPG

(東証第一部・コード:7148)



業績の総括

- ハイライト 3
- リースアレンジメント事業 4
- 多角化事業 10
- 販売ネットワーク 15

ご参考

- 損益計算書/貸借対照表 17
- 企業価値の向上に向けて 21

業績の総括



- ◆ 売上高、営業利益、経常利益とも前年同期を上回るが、経常利益の通期予想に対する進捗率は68.1%となっており、第4四半期での利益確保に注力
- ◆ 出資金販売額累計では、第1四半期の出遅れを概ね回復

(単位：億円)

	2018年9月期 第3四半期(累計)		2019年9月期 第3四半期(累計)			2019年9月期 通期予想	進捗率
		対 売上高比		対 売上高比	対前年 同期比 増減		
売上高	164.6	100.0%	200.4	100.0%	+21.8%	250.3	80.1%
リースアレンジメント事業	143.6	87.2%	148.5	74.1%	+3.4%	211.3	70.3%
多角化事業	21.0	12.8%	51.9	25.9%	+146.9%	39.0	133.0%
売上総利益※1	139.7	84.9%	149.3	74.5%	+6.9%	-	-
販売費・一般管理費	42.6	25.9%	45.1	22.5%	+5.8%	-	-
営業利益	97.0	58.9%	104.1	52.0%	+7.4%	145.2	71.7%
経常利益	94.2	57.2%	98.4	49.1%	+4.4%	144.5	68.1%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	65.7	40.0%	68.4	34.1%	+4.1%	100.3	68.2%
出資金販売額	1,118.3	-	1,096.0	-	▲2.0%	1,665.0	65.8%
組成金額※2	2,710.6	-	4,410.6	-	+62.7%	5,000.0	88.2%

※1 売上総利益：不動産事業での一棟販売により、利益率が一時的に低下(P14参照)

※2 組成金額：好調な組成状況を踏まえ、組成金額の通期予想をさらに500億円上方修正(P5参照)

リースアレンジメント事業 (1) 概況

- ◆ 売上高は第2四半期以降の好調な販売を維持し、前年同期と同水準に到達
- ◆ 組成金額は4,410億円となり、第3四半期までで年間の最高組成額を達成
- ◆ 投資家の旺盛な需要を踏まえ、引き続き潤沢な商品在庫を確保(P7参照)

(単位：億円)

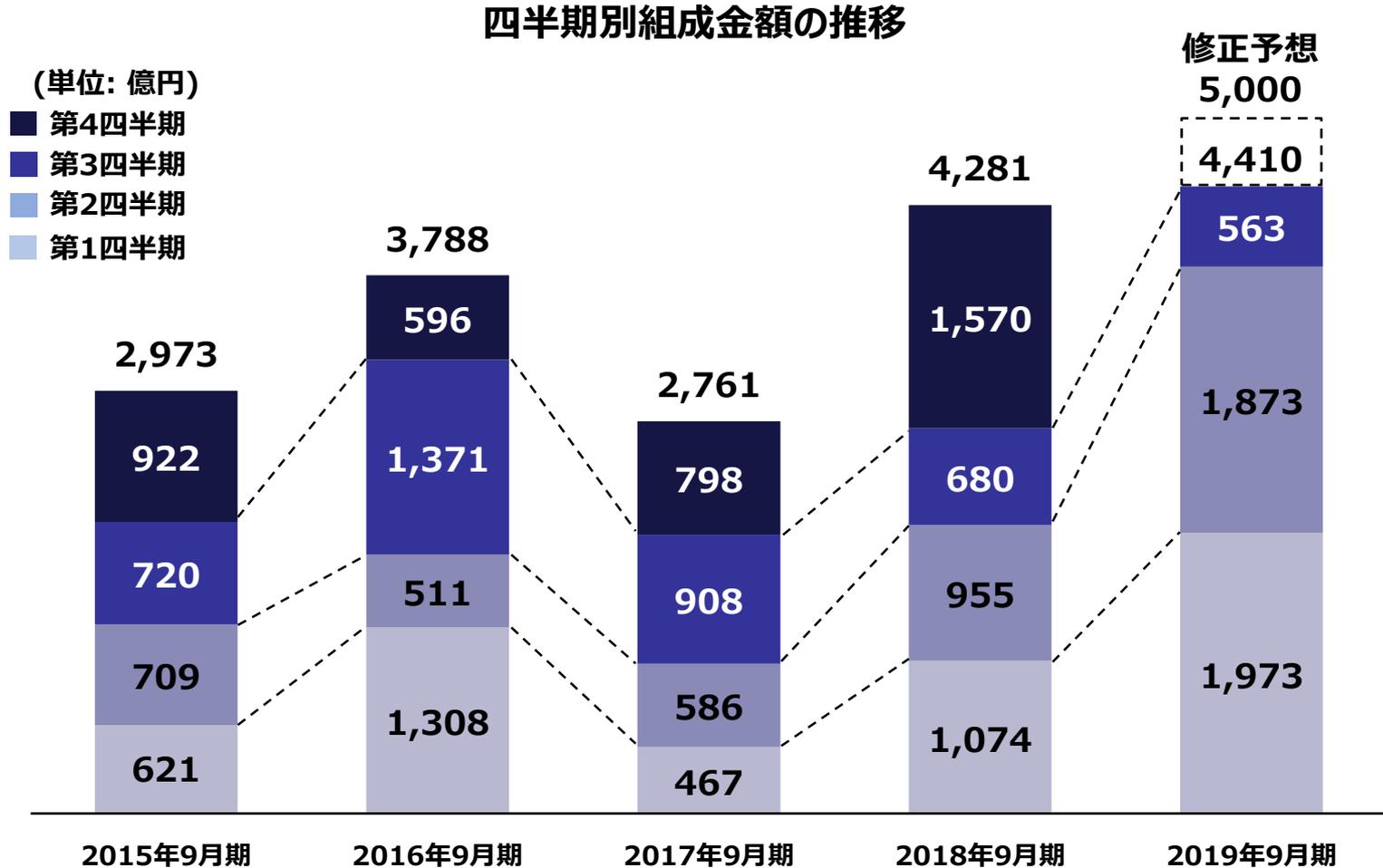
		2018年9月期 第3四半期(累計)		2019年9月期 第3四半期(累計)		対前年 同期比 増減
リースアレンジメント事業売上高		143.6		148.5		+3.4%
出資金 販売額		1,118.3	構成比	1,096.0	構成比	▲2.0%
	航空機	859.4	76.9%	462.1	42.2%	▲46.2%
	船舶	96.8	8.7%	505.2	46.1%	+421.5%
	コンテナ	162.0	14.5%	128.6	11.7%	▲20.6%
手数料率 (売上高/出資金販売額) ※1		15.4%		15.3%		-
組成金額		2,710.6		4,410.6		+62.7%
商品在庫 ※2		329.8		1,101.6		+234.0%

※1 手数料率：匿名組合契約のフルエクイティ案件および信託案件の出資金販売額を34%で換算

※2 商品在庫：商品出資金および金銭の信託(組成用航空機)の合計

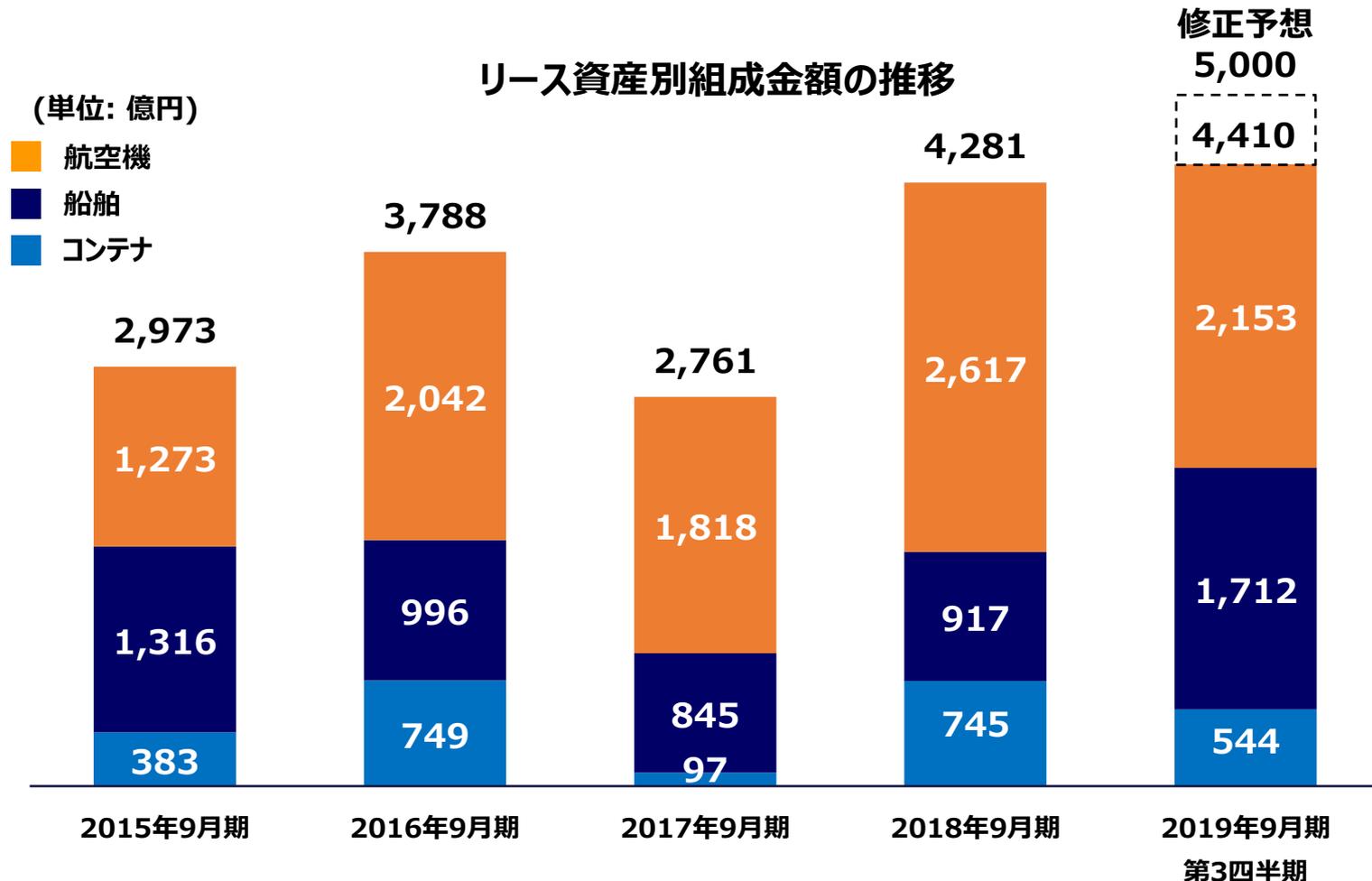
リースアレンジメント事業 (2) 四半期別組成金額

◆ 組成能力の向上を背景に、組成金額の通期予想を4,500億円から5,000億円へ、再度上方修正



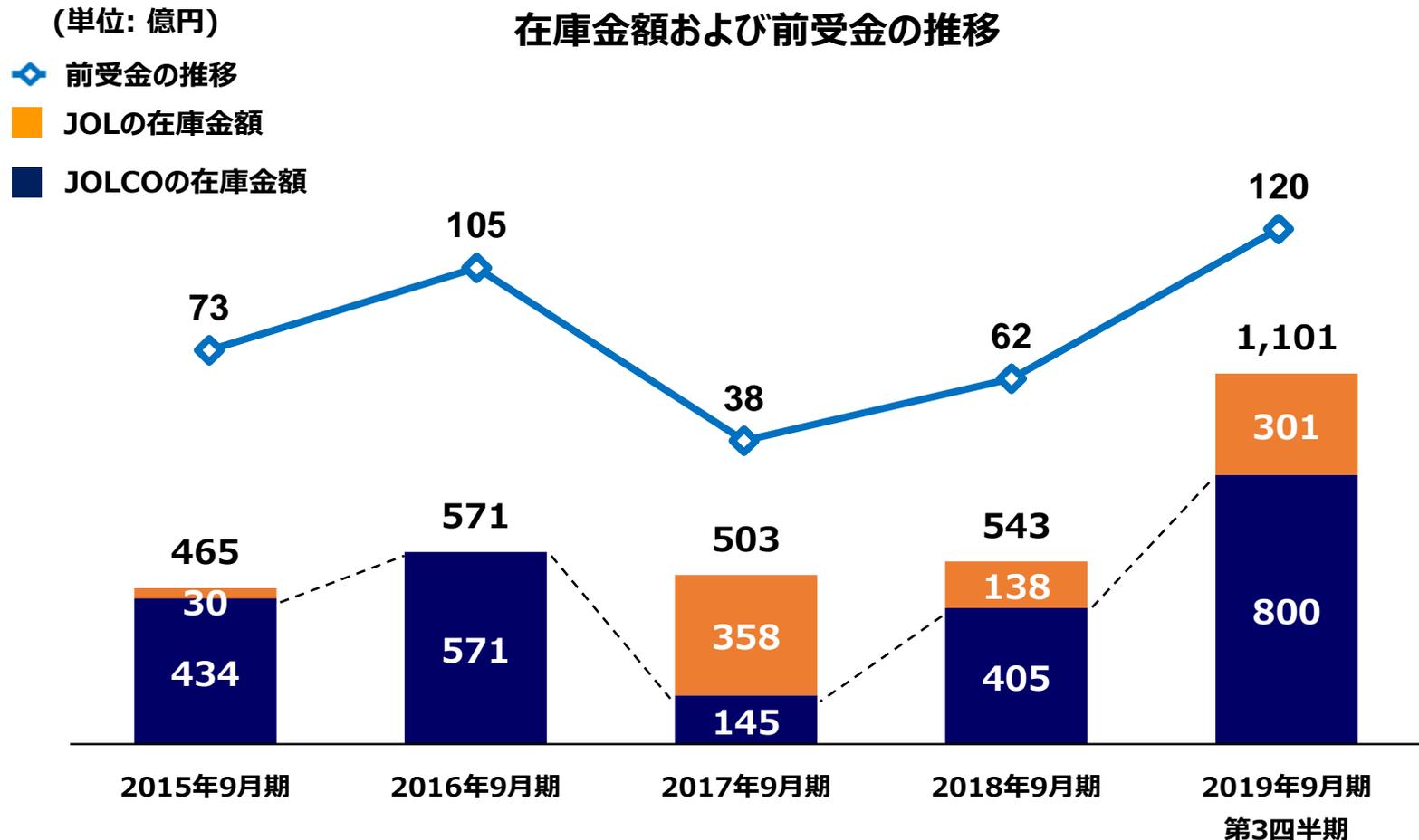
リースアレンジメント事業 (3) リース資産別組成金額

- ◆ 航空機は、航空会社、リース会社向けともに好調に推移
- ◆ 船舶は、市況の回復に伴って、既に年間の最高組成額を達成
- ◆ コンテナは、リピート案件に加えて、新規の賃借人を獲得



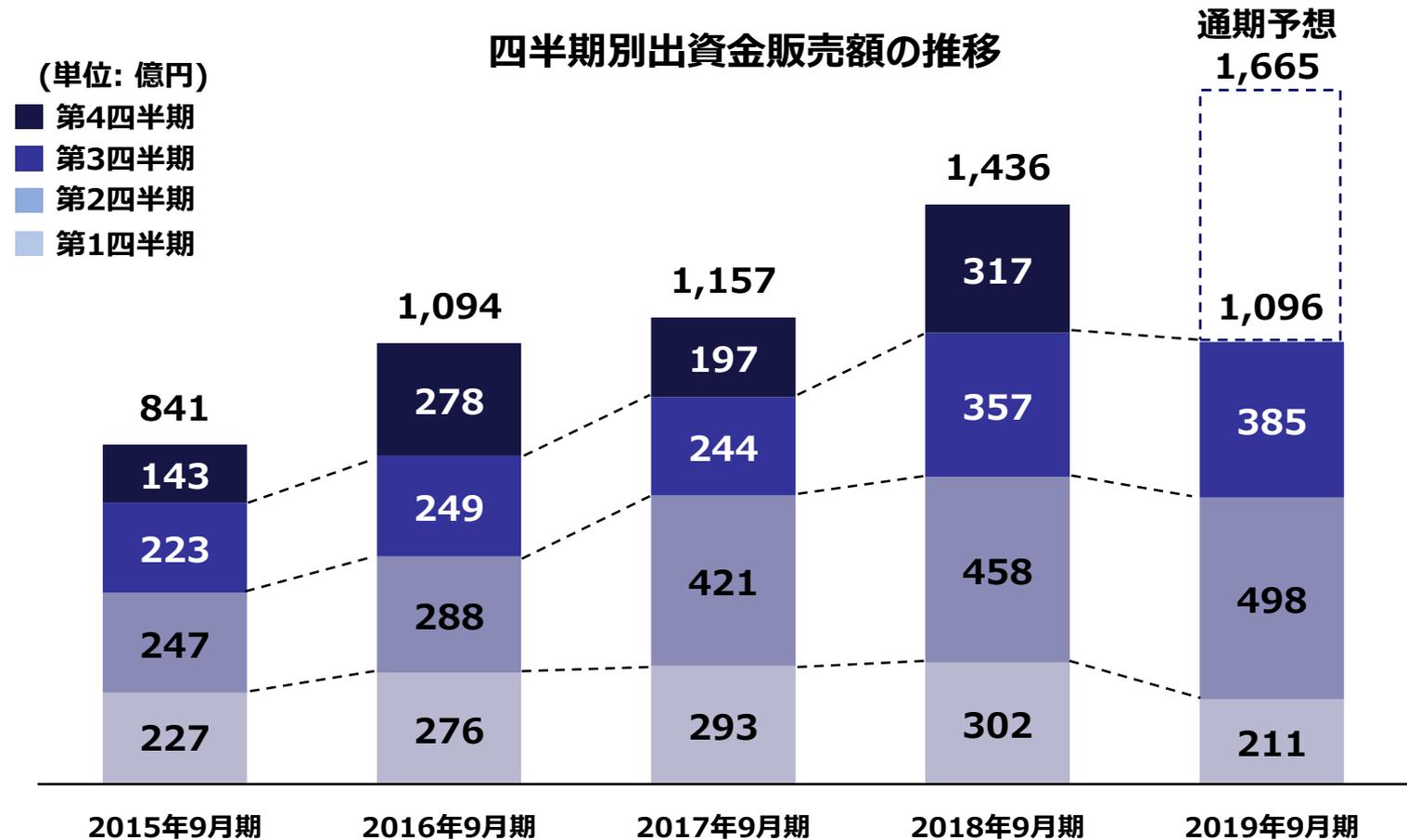
リースアレンジメント事業 (4) 商品在庫

- ◆商品在庫および将来の売上となる前受金(手数料)は高水準を維持
- ◆JOLCO、JOLともに来期以降の需要に対応する商品在庫も一定の水準を確保



リースアレンジメント事業 (5) 出資金販売額

- ◆ 第2四半期、第3四半期ともに、四半期別の出資金販売額は過去最高を達成し、通期においても過去最高の販売額を達成できる見込み
- ◆ 前期と異なり潤沢な商品在庫を確保しており、投資家の旺盛な需要に応えることが可能



◆JOLCOに続き、JOLの取扱高においても業界No.1を目指す

- 販売実績は、第3四半期で3機、2019年9月期累計で7機
- FPG AMENTUMが香港子会社を設立し、2019年7月よりアジアの賃借人向け活動をさらに強化

●JOLの組成・販売実績の推移

会計年度	2015年9月期	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期	2019年9月期 第3四半期(累計)
組成実績	4機	3機	15機	4機	10機
販売実績	2機	5機	4機	12機	7機
販売実績 (うち信託受益権方式)	-	-	(2機)	(7機)	(4機)

(参考) JOLCOとJOLについて

JOLCO :リース満了時に、リース資産の購入選択権(Call Option)が賃借人へ付与されている取引
出資金を小口化し、販売。出資金販売額の約8割がJOLCO(2018年9月期実績)

JOL :購入選択権(Call Option)が付与されていない取引
大口投資家1社向けの販売が中心

◆不動産事業の牽引により、3事業の売上高が大幅に増加

- 保険事業は、法人向け生命保険の一部販売停止の影響があったものの、前年同期の売上高水準を確保
- 不動産事業は、開発不動産の1棟販売が貢献(P14参照)
- M&A事業は、着実に売上高が増加し、さらなる売上高の増加を図る

多角化事業の売上高 ※1

(単位：百万円)

	2018年9月期 第3四半期(累計)		2019年9月期 第3四半期(累計)		対前年 同期比 増減
		対連結 売上高比		対連結 売上高比	
連結売上高合計	16,464	100.0%	20,049	100.0%	+21.8%
コア3事業の売上高合計	1,399	8.5%	4,829	24.1%	+245.2%
保険事業	810		821		+1.4%
不動産事業	549		3,867		+603.5%
M & A 事業	39		139		+255.5%
投資管理サービス事業等 ※2	705	4.3%	366	1.8%	▲48.0%
多角化事業売上高合計	2,104	12.8%	5,196	25.9%	+146.9%

※1 多角化事業の売上高とは、当社の主要事業であるリースアレンジメント事業以外の事業の売上高を総称するもの

※2 投資管理サービス事業等とは、海外関係子会社の投資管理サービス事業および証券・信託等の国内関連子会社の事業を総称するもの

◆3月以降に法人向け生命保険の一部が販売停止となった影響があったものの、売上高は第3四半期累計で前年同期の売上高水準を確保

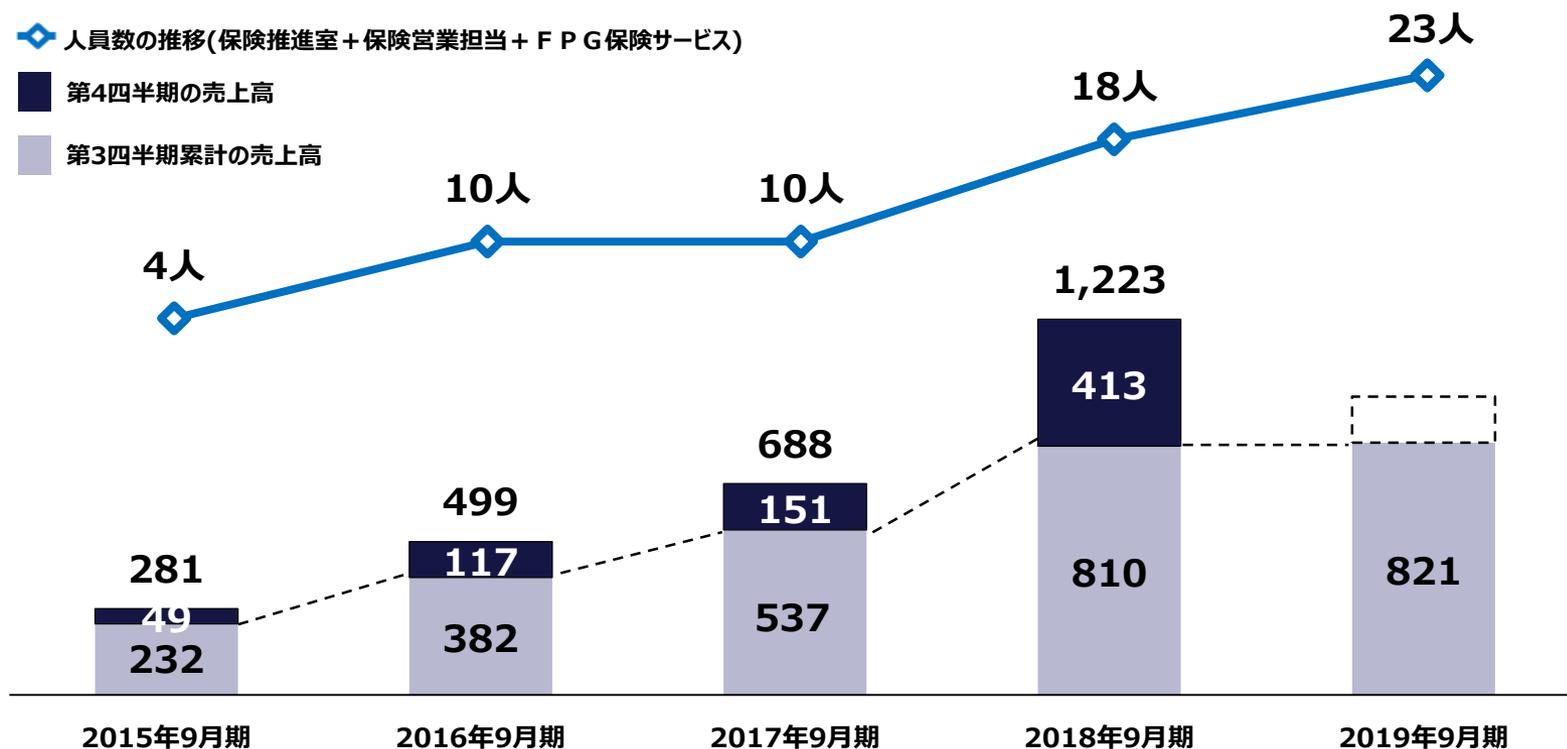
保険事業の売上高 ※ ※

(単位：百万円)

◆ 人員数の推移(保険推進室+保険営業担当+FPG保険サービス)

■ 第4四半期の売上高

■ 第3四半期累計の売上高



※ 保険会社等より受領する手数料収入(保険仲立人と保険代理店の売上高の合算)

不動産事業（1）推移

- ◆商品の多様化、販売チャネルの拡大により、不動産小口化商品の販売が増加
- ◆開発不動産の1棟販売の実施により、不動産事業の取引規模が拡大

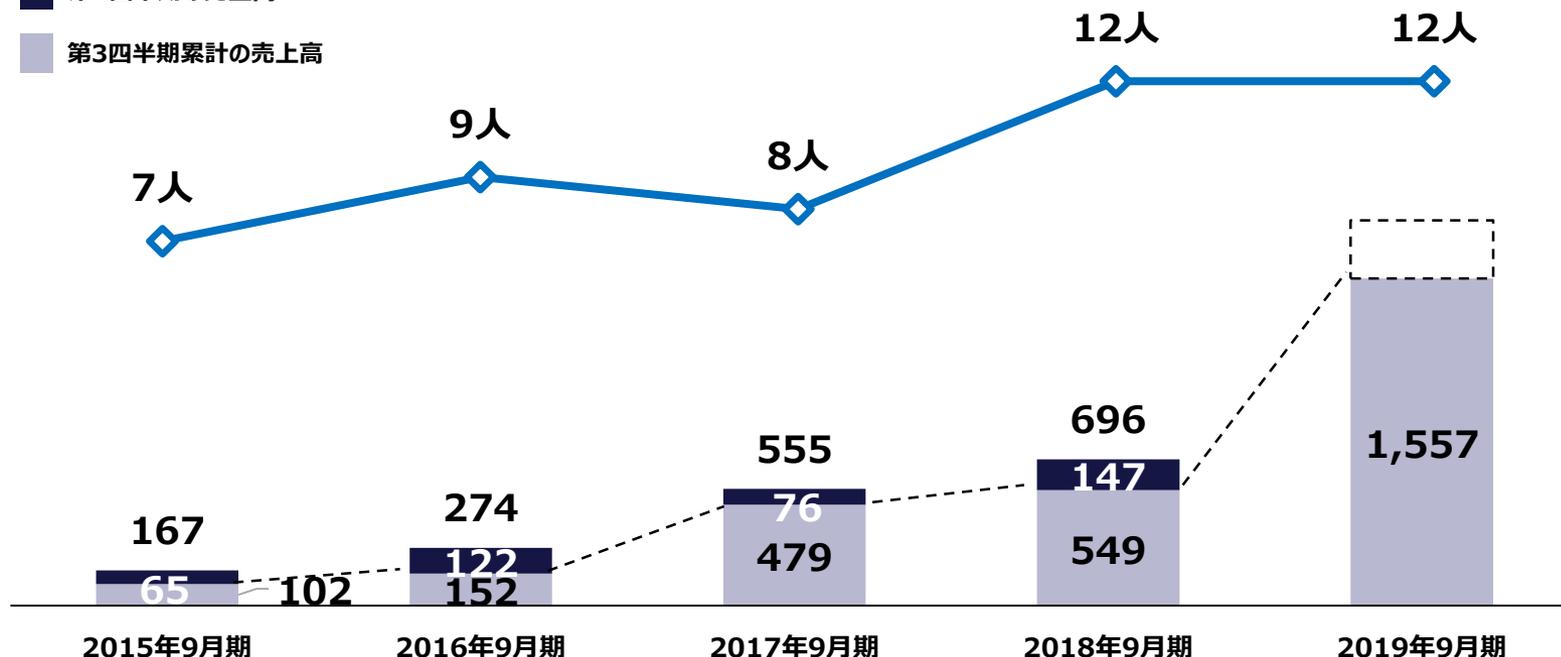
不動産事業の売上高(手数料換算ベース)[※]

(単位：百万円)

◆ 人員数の推移(不動産推進室)

■ 第4四半期の売上高

■ 第3四半期累計の売上高



※ 不動産小口化商品の組成および販売に係る手数料による売上高、1棟販売に関する手数料換算の売上高を合算して集計

不動産事業 (2) 組成実績

- ◆ 組成対象としてオフィス・商業ビルに加え、供給不足となっているホテルを新たに追加
- ◆ 対象エリアを東京都心の一等地からインバウンドニーズの高い京都中心部にも拡大



FPGホテルオーナーズシリーズ



FPGホテル
オーナーズ京都



FPGホテル
オーナーズ京橋

FPGリンクス渋谷
物件売却による初の償還を実施

◆初の1棟販売を実施し、第3四半期に売上を計上

■ 小口販売と1棟販売との 売上高の計上方法の違いについて

小口販売

販売手数料のみ
を売上高に計上

1棟販売

不動産取引額全額
を売上高に計上

FPGリンクス表参道



■ 今期の利益率について

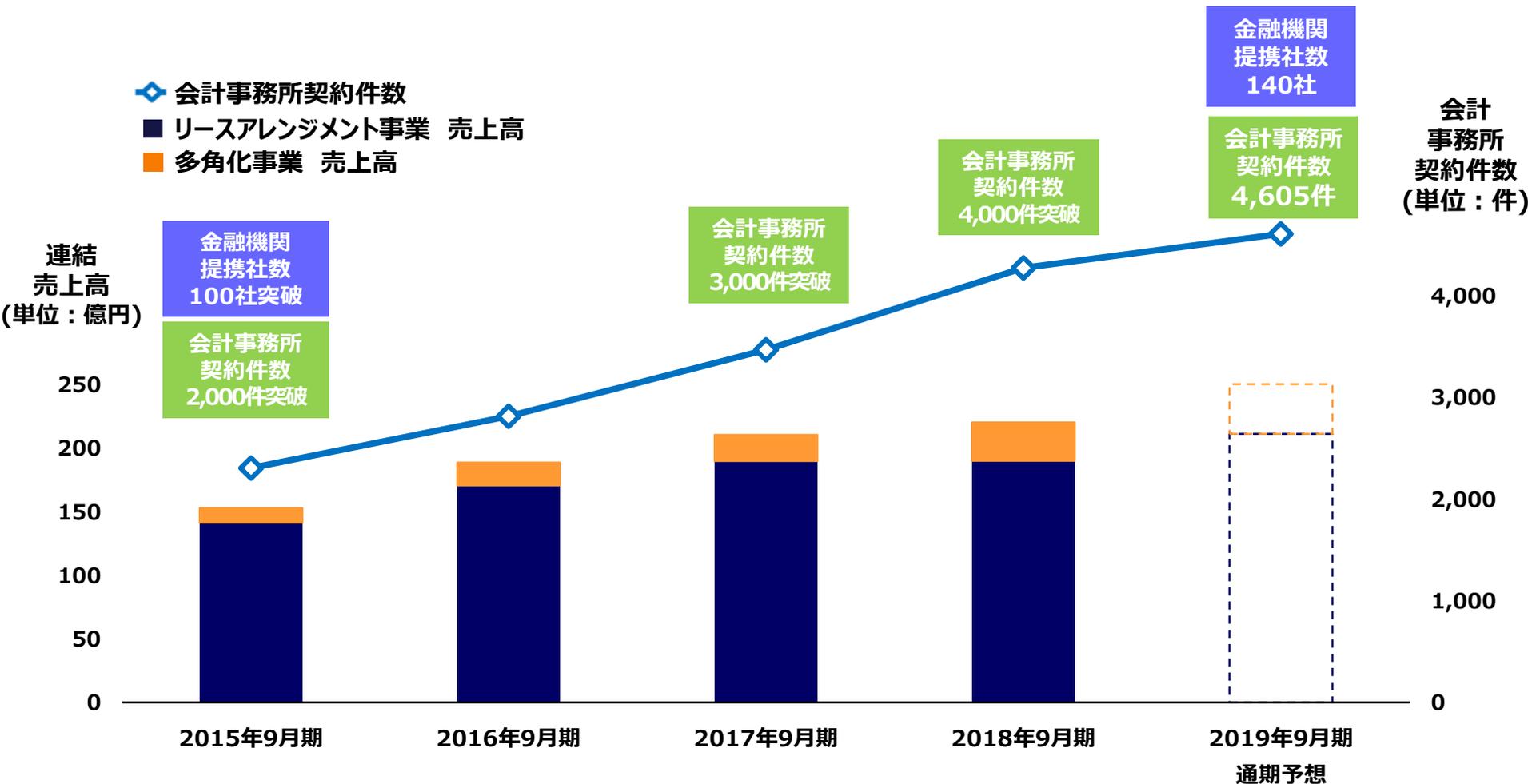
1棟販売の売上高計上方法が取引額その
ものであり、売上高が大きく計上されるため、
利益率は一時的に低下

開発から販売までの時系列

2018年 2月 用地取得、開発着手
2018年11月 竣工
2019年 5月 販売

販売ネットワーク 概況

- ◆ 会計事務所との契約件数は、4,605件に到達 (前期末比333件増)
- ◆ 金融機関の提携社数は140社に達し、全国の地方銀行、大手証券会社をほぼ網羅
- ◆ ネットワークの拡大とともにクロスセルの可能なネットワークをさらに強化



ご参考



(単位：億円)

	2018年9月期 第3四半期(累計)	2019年9月期 第3四半期(累計)	対前年 同期比 増減
売上高	164.6	200.4	+21.8%
①売上原価	24.9	51.1	+105.0%
売上総利益	139.7	149.3	+6.9%
販売費・一般管理費	42.6	45.1	+5.8%
営業利益	97.0	104.1	+7.4%
②営業外収益	8.9	10.6	+18.8%
③営業外費用	11.7	16.4	+40.1%
経常利益	94.2	98.4	+4.4%
税引前純利益	94.1	97.9	+4.1%
法人税等合計	27.4	29.5	+7.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	65.7	68.4	+4.1%

- ①売上原価：不動産の一棟販売に係る原価、顧客紹介者への支払手数料、リースアレンジメント事業の案件組成コストを含む
 ②営業外収益：一時的に立替えた出資金を投資家に販売する際に徴収する立替利息を受取利息として含む
 ③営業外費用：資金調達に伴う支払利息、JOL案件に伴うドル調達の支払利息を含む

貸借対照表の概要

(単位：億円)

資産	2018年9月期	2019年9月期 第3四半期	対前期増減
流動資産	806.4	1,356.2	+549.7
①商品出資金	405.0	865.0	+459.9
②金銭の信託(組成用航空機)	138.7	236.6	+97.8
③組成用不動産	72.2	26.1	▲46.0
固定資産	44.9	53.7	+8.7
資産合計	851.4	1,409.9	+558.5

	2018年9月期	2019年9月期 第3四半期	対前期増減
流動負債	473.9	1,015.4	+541.4
短期借入金等	327.2	830.6	+503.4
④前受金	62.3	120.7	+58.4
固定負債	79.9	95.9	+15.9
長期借入金等	77.6	93.5	+15.9
負債合計	553.9	1,111.3	+557.4
純資産合計	297.4	298.5	+1.0
負債純資産合計	851.4	1,409.9	+558.5

- ①商品出資金：リースアレンジメント事業で当社が投資家に販売するまで一時的に立替えている出資金
- ②金銭の信託(組成用航空機)：航空機リース案件に係る信託受益権の在庫
- ③組成用不動産：不動産小口化商品の在庫
- ④前受金：リースアレンジメント事業に係る手数料の前受金を含む

- ◆ 今後、オペレーティング・リース取引が資産計上へと変更される場合でも
貸貸人、投資家へは特段の影響はなし
- ◆ オペレーティング・リースを活用するレシーのメリットは不変
 - 2019年1月のIFRS16適用後も、JOLCO・JOLの組成においては特段の影響はなく、
順調に組成が拡大

IFRS会計基準（参考）

	借借人 【航空会社・海運会社等】	貸貸人 【FPGグループ】	投資家 【中小企業】
IFRS16	<ul style="list-style-type: none"> ■ 借借人がIFRS適用会社 →リース取引をオンバランス化 リース資産およびリース負債 をB/Sに計上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特段の影響なし 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特段の影響なし

◆ 当社の取組方針

- 「優良な賃借人へのリース取引が確定している機体のみを取得し、
確定していないリスクのある投機的な購入を直接メーカーから行うことはしない」

◆ 運航停止の影響

- 同機種種の航空機の運航の如何にかかわらず、賃借人にはリース料の支払い義務があることから、当社事業への影響はなし

- ◆ 持続性のあるQuality Growth戦略と、株主還元政策により、企業価値の向上を目指す

Quality Growth戦略



株主還元政策

高い収益性・効率性を伴う成長

- 強みを活かし自己変革を継続
- リースアレンジメント事業・多角化事業・新規事業の3つのエンジンによる持続成長
- 商品力と販売力によりシェアを拡大
- 資産を持たない経営

DOE (株主資本配当率)^{※1}を採用

- DOE15%以上を目指す
自社株取得を含めた資本政策および配当方針を実施
- ROE30%程度の維持

※1 DOE (株主資本配当率) = ROE×連結配当性向

◆3つのエンジンによる持続成長

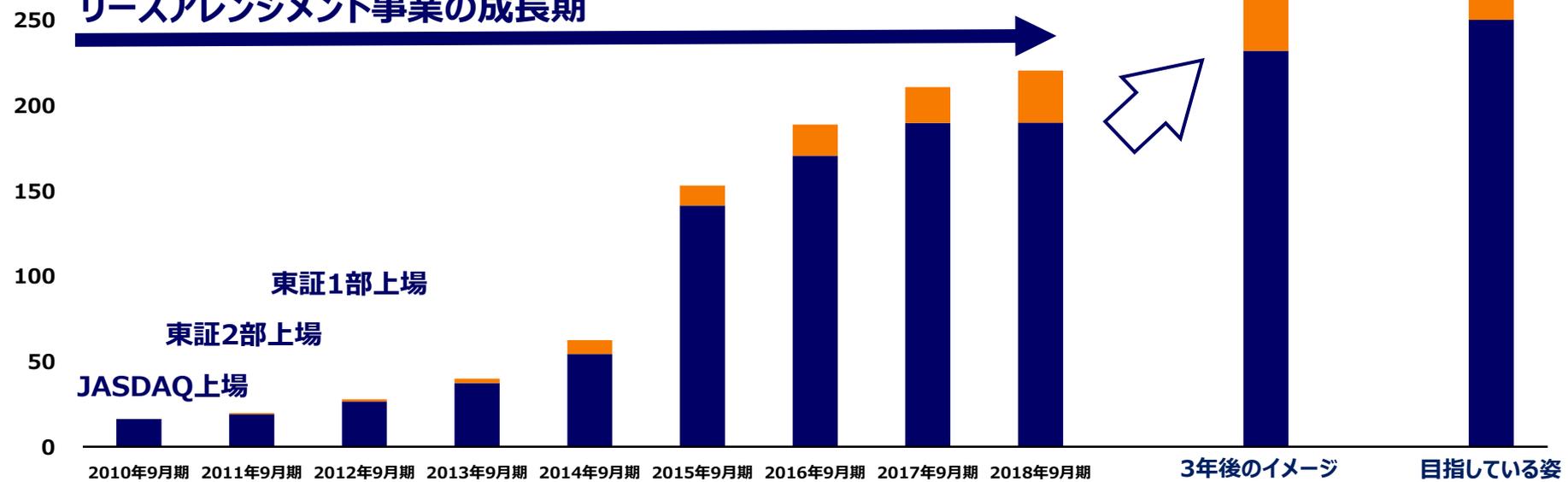
- 新規事業の売上高
- 多角化事業の売上高
(保険・不動産・M&A)
- リースアレンジメント事業の売上高

**第3の成長エンジン：
新規事業の成長期**

**第2の成長エンジン：
多角化事業の成長期**

連結
売上高
(単位: 億円)

**第1の成長エンジン：
リースアレンジメント事業の成長期**



東証1部上場

東証2部上場

JASDAQ上場

2010年9月期 2011年9月期 2012年9月期 2013年9月期 2014年9月期 2015年9月期 2016年9月期 2017年9月期 2018年9月期

3年後のイメージ

目指している姿

※2013年9月期より連結決算開始

企業価値の向上に向けて(3)株主還元政策

◆ Quality Growth戦略のもと、企業価値の向上を図り、持続的な増配を目指す

2018年9月期

2019年9月期 予想

1株当たり配当金 : 49.25円

連結配当性向 : 49.4%

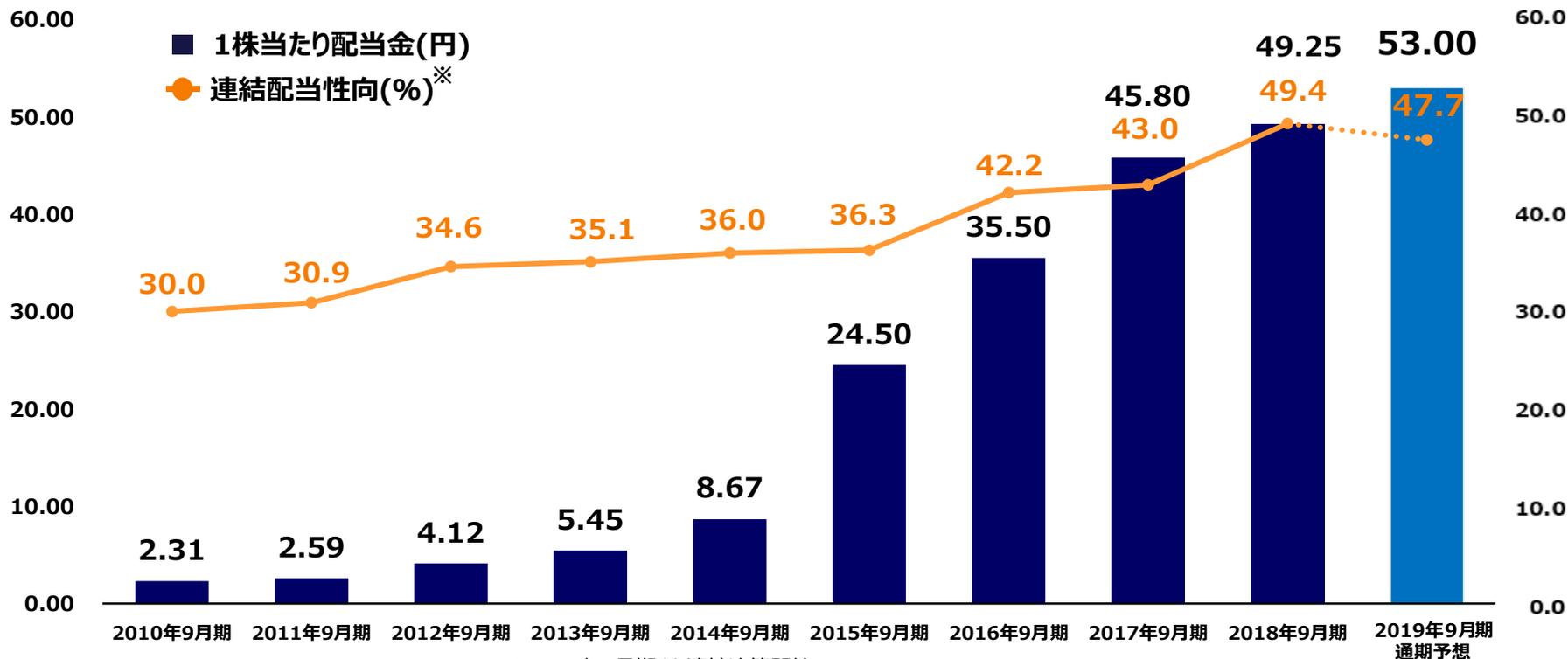
1株当たり配当金 : 53.00円

連結配当性向 : 47.7%

配当金
(単位 : 円)

1株当たり配当金・連結配当性向

配当性向
(単位 : %)



※2013年9月期より連結決算開始

本資料に掲載されている業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報や合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、さまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、掲載の見通しとは異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

株式会社 F P G 経営企画部

TEL (03) 5288-5691

URL <https://www.fpg.jp>